

4 成都總領事館再開問題

292 昭和11年7月26日 在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都は非開港地のため領事館設置は不当との中国紙報道振りに鑑みわが方總領事館再開に当た
り外交部の了解付け方重慶領事より意見具申

付記 昭和十一年七月七日付、東亜局第一課作成

「成都總領事館再開ニ必要スル諸經費支出方
ニ關スル件」

漢口 7月26日後発
本省 7月26日夜着

第一八二號

重慶發本官宛電報

第二六號

大臣へ轉電アリタシ

第二八號

二十四日ノ當地各漢字紙ハ中央社南京電トシテ從來各國カ
我國ニ領事館ヲ設置セルハ開港地ニ限ラレ居レリ就テハ成

起ラサル様外交部ヨリ豫メ充分ノ了解ヲ取付ケ置ク要アリ
ト思考セラル

(漢口ヨリ)支、北平、南京へ轉電アリタシ

(付記)

成都總領事館再開ニ必要スル諸經費支出方ニ關スル件

(十一、七、七、亞一)

一、成都總領事館ノ再開ハ滿洲事變後多年ノ懸案ナリシカ今
般岩井總領事館事務代理ノ任命ヲ見、同書記生ハ七月十
五日頃東京出發成都赴任ノ途ニ上ルコトナレル處四川
省ハ紅軍ノ根據地、外國勢力角逐ノ檣舞台タルノミナラ
ス實ニ帝國大陸政策ノ最尖端ニ位スルモノナリ(詳細ハ
別紙岩井書記生稿説明書参照)仍ツテ同總領事館ヲシテ
充分其ノ機能ヲ盡サシムル爲ニハ最少限度左記經費並ニ
施設ヲ許可スルコト絶對緊要ナリト認メラル。

ニ經費

(一)調査機密費 月額 三百元

内 譯

(1)共產黨調査費 一〇〇元

都ハ開港地ニ非サレハ領事ヲ設クルコトヲ得サル處光緒ノ
末年英獨兩國ハ重慶領事カ總督ト商議ノ爲ナリトテ重慶領
事ノ名義ニテ成都ニ駐在セシメタルコトアリ其ノ後英獨ノ
成都駐在員ハ撤廢セルモ佛國ハ引續キ代表者ヲ成都ニ駐在
セシメ居リ一般人ハ誤テ成都駐在領事ト爲セリ外交部ハ各
方面ノ誤解ヲ避クル爲最近佛國大使館ニ對シ領事名ノ廢止
方交渉ノ結果同大使館ニテハ之ヲ容レ該名義ノ訂正ヲ命セ
リ云々ノ報道ヲ掲ケ居レリ

本官ハ二十六日當地佛國領事「メダー」ニ面會該記事ニ付
質シタルニ「メダー」ハ大使ヨリ何等通知ニ接セサルニ付
之ヲ知ラサルモ外交部川康特派員吳澤湘カ豫テ右ニ關シ語
リ居リタル所ニモ鑑ミ吳ノ仕業ト認メラル三十年前開館當
時ハ雲南府同様佛國外交部特派員(「デレゲ、ドウ、ミニス
テール、デ、アフエール、エトランゼール」)ノ名義ヲ用ヒ
居タルカ何時ノ間ニカ領事名ヲ用フル様ニナレリト語レリ
本件ニ關シテハ本年二月二十五日附機密第四五號拙信添付
報告書中四、成都總領事館再開方ニ關スル卑見ノ項ニ言及
セル通り近ク同館再開ヲ前ニ吳ノ策動ニ依ルコト明カナル
カ果シテ右ノ報道ニシテ事實トセハ同館再開ニ當リ支障ノ

(2)英蘇等諸國ノ活動調査費 一〇〇元

(3)經濟資源調査費 一〇〇元

(二)宴會費 月額 壹百元

官憲側及一般民衆トノ應酬費

(三)臨時宴會費(開館披露ノ爲ニ必要ナル費用) 三百元

三、施設

(1)商品陳列室ノ開設

(2)自動車 一

(3)ラヂオ聴取機 一

(4)寫眞機及其附屬品

(5)館内備品(引上ケ後永ク放置セル爲新規補充ヲ要スル
モノアリ)

以上(1)乃至(5)ニ關シテハ岩井書記生着任後改メテ稟請
ヲ俟ツテ考究ス。

(6)無電設備(大体ノ見積ハ別紙^(金額)ノ通ナル處本件ハ多額ノ
經費ヲ要スルノミナラス技術的ニモ尙研究ヲ要スル點
アルニ付追テ専門家ヲ出張セシメ更ニ具体案ヲ練ルコ
トト致度シ)

(別紙)

成都總領事館所要機密費宴會費及諸施設

ニ關スル説明書

(岩井書記生稿)

一、四川省ハ之ヲ國內的ニ見レハ古來天府四塞王霸ノ業ヲ成スニ足ル地域ニシテ諸葛孔明玆ニ據リテ中原ヲ窺ヒ今又蔣介石之ヲ以テ支那民族復興乃至ハ對日抵抗最後ノ根據地タラシメントシツツアリ右ハ同地域ノ地勢ノ然ラシムルトコロナルノミナラス支那十八行省中稀ニ見ル豐富ナル資源ヲ有スル天賦ノ地域タルカ故ニシテ將來其ノ資源ニシテ開發セラレンカ自給自足ノ一獨立國ヲ形成シ得ル資格ヲ具有ス

又之ヲ國際關係ニ見レハ同地域ハ英米佛獨蘇聯等諸列強カ虎視眈々勢力ノ扶殖伸長ヲ狙ヒ居ルトコロニシテ就中英蘇兩國ハ前者ハ印度西藏ヨリ長江ニ通スル要衝タルコトニ依リ後者ハ四川紅軍トノ連絡ニ於イテ極メテ重大ナル關心ヲ有スルモノナルコトハ周知ノ事實ニシテ而シテ此種情勢ハ直ニ我大陸政策ト正面衝突ヲナスヘキ運命ニ在リ

二、成都ハ右地域ノ首都トシテ古來極メテ重要ナル地位ヲ占

メ來レル處昨今其ノ重要性愈増大シツツアリ即チ目下ノ

處經濟商業ノ點ニ於テこそ重慶ニ一步ヲ讓ル其ノ他政治的ニ(省政府所在地)軍事的ニ(各種軍隊ノ統卒機關ノ外ニ中央軍官學校分校モ最近設立セラル)文化的ニ(四川大學、華西大學等支那有數ノ大學アリ)將又交通上ヨリ見ルモ(成渝鐵道ノ起點タルト同時ニ雲南貴州湖北湖南陝西甘肅青海西康ノ諸省ヘノ空陸交通ノ中樞地點タリ)全支ニ於テ極メテ重要ナル地位ヲ占メ將來國內外情勢ノ變化如何ニ依リテハ第二ノ南京タルヘキ可能性アリ

三、從テ成都總領事館再開ノ意義ハ極メテ重大ニシテ同館ハ正ニ我大陸政策ノ前進根據地タルノ使命ヲ有ス同館今後ノ活動ニ依リ能ク同地域ニ我方ノ確乎タル地步ヲ扶殖シ得ルヤ否ヤハ我大陸政策今後ノ消長ヲ決スル關鍵トモナルヘク從テ爾今一面同地域ニ對スル諸列強ノ陰謀ヲ常時監視阻止スルト共ニ他面支那側ヲ誘導シテ我方トノ經濟的文化的關係ヲ増進スル必要アルノミナラス行ク行クハ政治的軍事的ニモ緊密ナル關係ヲ樹立シ東亞共同維護ノ實績ヲ舉クルコトハ一ニ同總領事館ノ責務ナリ

四、尙同地域ハ人口五千万ヲ有シ其ノ富力モ十八行省中有數

二 日中諸案件交渉

293

昭和11年7月27日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

六、右様狀勢ニ鑑ミ我方トシテハ速ニ成都ニ四川經營ノ本據ヲ置キ例ヘハ成都總領事館ノ本建築ヲ爲ス等本腰ヲ入ルヘキ時機ニ達セルヤニ思料セラレ之カ爲メニハ館員ノ充實等急速措置スヘキモノ多々アル次第ナルカ右ニ至ル過渡的便法トシテ現在ノ陳容ヲ以テ充分其ノ機能ヲ發揮セシメンカ爲ニハ少クトモ總領事館維持ニ要スル經常的諸經費以外別紙ノ如キ活動經費及施設ヲ要スル次第ナリ

在成都仏國領事館の名義変更を要求中であり
日本よりの領事派遣も絶対に承認できないと
の外交部係官説明について

南京 7月27日午後発

本省 7月27日夜着

第五三三號

支發閣下宛電報第五七〇號及重慶發閣下宛電報第二八號ニ關シ

二十七日吳。頌。皋。ハ館員ノ質問ニ對シ冒頭電報ノ次第ヲ肯定シ英獨兩國ハ支那側ノ要求モアリ既ニ撤廢シ殘ルハ佛國ノミニテ目下尙交渉中ナルカ元來前清時代成都ニ駐在ヲ認メタルハ交通不便ナリシ關係上交渉ノ便宜ノ爲重慶領事ノ代表者トシテノ資格ニテノ出張ナリシ次第第二ニ日本モ近ク領事派遣ノ旨承知シ居ルカ支那側トシテハ條約上各國領事ノ成都駐在ハ絕對ニ承認シ難シト述ヘタルニ付館員ヨリ我方ハ滿洲(事變)ノ結果一時引揚中ナリシモ既ニ多年ニ亘リ同地ニ領事官ヲ駐在セシメ領事官ノ資格ニ於テ職務ヲ執行セシメ來レル次第ニシテ少クトモ支那側ノ事實上ノ承認若クハ默認アリタルコトハ否定シ難ク言ハハ一種ノ既得權トモ

稱シ得ヘキ譯合ニテ今更支那側ヨリ形式的條約論ヲ楯ニ兎ヤ角言ハルヘキ筋合ニアラスト應酬シ置ケル趣ナリ
本件ニ付テハ本官ヨリモ更ニ張群等ニ申入ノ筈ナルモ多少ノ波瀾ハ免レサルヘシト思考セラルル處我方トシテハ支那側ノ言分ニハ取合ハス不取敢再開ヲ實現シ既成事實ニテ押通スコト然ルヘキヤニ思考セラル

支、北平、漢口、重慶ニ轉電セリ

294 昭和11年7月29日 有田外務大臣より
在中国川越大使宛(電報)

成都總領事館の設置経緯について

本省 7月29日後1時30分発

第一八二號

貴電第五七一號ニ關シ

成都總領事館ハ大正七年六月十四日開館セルガ(右ハ同年八月十三日外務省告示トシテ官報ニ掲載セラレタリ、尙右ニ對シ支那側ヨリ抗議アリタル場合ニハ既ニ英佛ノ前例モアリ取り上ゲザルコトニ決定シ居タリ)當時我事務代理ヨリ支那側ニ對シソノ發給セル護照ニ加印方照會セル處支那

北平、南京、漢口へ轉電セリ

295 昭和11年7月31日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開の正当性に関する陳介外交
部常務次長との応酬について

南京 7月31日後発
本省 7月31日夜着

第五五四號

往電第五四〇號ニ關シ

本三十一日陳介ニ對シ高宗武ニモ話シ置キタル通り今頃此ノ種問題ヲ提起スルハ大局ヲ辨ヘサルモノナルニ本日ノ新京日報迄本問題ニ關シ論說ヲ掲クルニ至リテハ(往電第五五三號)益々退引ナラサル苦境ニ陥ルコトトモナルヘキニ付先ツ是等ノ言論取締アリ度シト申入レタルニ陳ハ之ヲ承諾シ高宗武ヨリ上海ニ於テ本件ニ關シ川越大使ノ御話モ承リ居ル由電報越シアルニ付何レ高ノ歸寧ヲ俟チ相談スヘキカ重慶領事館ノ暫。在交渉員トシテナラハ兎モ角獨立領事官ノ駐在ハ認メ難シト言ヘルニ付本官ヨリ我方ハ國內的ニモ

側ヨリ英佛領事ノ成都居住(原文ニハ暫居省城トアリ)ニ付テハ光緒廿八年ノ頃北京總理各國事務衙門ヨリ四川總督ニ通牒アリ其ノ職權行使方認許アリ、依テソノ發給スル護照ニ加印シ居ルモ帝國領事館ノ同地駐在ニ關シテハ外交部ヨリ指令ナキヲ以テソノ發給スル護照ニハ加印スルヲ得サル旨申越セリ一方外交部ニ於テモ成都ハ開市場ニ非ス各國ヨリ往々領事ヲ該地ニ居住セシムルコトアルモ右他ノ開市場ヨリ公務ノ爲該地ニ赴キ暫時居住スルモノニシテ領事館ヲ設置セル次第ニハ非ズト主張ヲ持シ居タル處同部ヨリ大正七年十二月卅一日附我方宛公文ヲ以テ在成都日本領事ニシテ全然英佛領事ノ振合ニ準ジ重慶ヨリ暫時移駐スルモノナルニ於テハ支那側ニテモ英佛領事ニ對スルト同様ノ待遇ヲ與フベキ旨申越セリ然ルニ當時四川省政權ガ必ズシモ北京政府ノ威令ニ服セザリシ關係上同政權ハ右ヲ正式ニ承認シ難シトナセルモ我方ハ昭和六年十一月同總領事館ノ一時閉鎖マデ引續キ領事官ヲ駐在セシメタル次第ナリ
追テ前記事情ハ詳細岩井ニ話置キタルニ付テハ成都再開ニ關スル外交部宛公文發送ノ時期等ニ關シテハ岩井共打合ノ上可然ク御措置相成度シ

正式ニ諸般ノ手續ヲ經テ大正七年以來設置シ居ルモノナルヲ以テ重慶ノ出張員等ト爲スコトハ不可能ナリト申入レ置キタリ

支、北平、漢口、重慶へ轉電セリ

296 昭和11年8月1日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都は非開港地につき領事館設置は認められないとの外交部通報に対し既成事実を説明して強く反駁について

上海 8月1日後発
本省 8月1日夜着

第六〇二號

南京發閣下宛電報第五三三號ニ關シ

三十日周珏堀内ヲ來訪シ廿九日高宗武カ本使來訪ノ直後接シタル外交部ノ電報ナリトテ高苑ノ該電文寫ヲ堀内ニ手交シタルカ右ニ依レハ日本ハ岩井ヲ成都ニ派遣シ領事館ヲ設置スル由ナルカ同地ハ開埠地ニアラサルニ付領事館ノ設置ヲ許サス佛國領事館曩ニ代表ヲ派遣シ擅ニ領事館ト稱シ居

タルモ交渉ノ結果該名義ヲ撤廢セシメ地方政府モ亦領事ノ待遇ヲ與ヘ居ラサルニ付右ノ次第川越大使ニ傳ヘ紛糾ヲ生セシメサル様考慮ヲ求ムヘシト記載シアリ周ヨリ我方ノ考慮ヲ望ム旨申出テタルカ右ニ對シ堀内ヨリ貴電第一八二號ヲ含ミ我方ノ領事駐在ハ大正七年ニ外交部公文ニテ認メラレ其ノ後永年職務ヲ行ヒ支那側之ヲ認メ來リ居ル事實ヲ説明シ本件ヲ正式ニ持出スナラハ我方ハ斷然之ヲ拒絕スヘキ筋合ナル旨ヲ說示シ置キタル趣ナル處三十一日高宗武再應本使來訪ノ際本件ニ言及シ領事官ノ派遣中止方申出テタルニ付本使ハ右貴電ノ歴史的經過等ニ付適宜説明ヲ與ヘタル上右ノ如ク十數年ニ亘リ何等問題ナク經過シタル既成事實ヲ無視シ今日突如トシテ領事官ノ派遣中止方ヲ申出ツルカ如キハ眞ニ意外トスル所ニシテ我方ハ到底之ヲ受付ケ得サル旨申聞ケ尙岩井ハ豫定通り赴任セシムヘキニ付斯ノ如キ問題ニテ態ト波瀾ヲ起スコトナキ様希望スル旨告ケタルニ高ハ本件ハ國際司ノ所管ニテ既往ノ經過等充分承知シ居ラサルカ兎ニ角御話ノ次第ハ部長ニ報告スヘシト答ヘタリ漢口ヨリ重慶ヘ轉電アリタシ

~~~~~

北平、南京、漢口ヘ轉電セリ

## ノ地方官憲ニ對スル挨拶應酬

等ノ名目ニテ(此ノ際岩井ノ職名等ニ對シ故障ヲ申出ツルカ如キ場合ハ此ノ點ニ對シ別段「コムミット」セス一應外務書記生名義ニテ)兎モ角地方官憲ヲシテ成都迄ノ旅行ニ對スル保護ヲ承諾セシメ成都到着ノ既成事實ヲ作リ置キタル上外交部及地方官憲宛着任通知ヲ發シ支那側ノ出方ニ對應スルコトト致度シ

ニ尙支那側輿論等刺戟ヲ避クル爲重慶到着迄前記岩井ノ行程等一切外部ニ發表セサルコトトセリ特ニ新聞ニ掲載セシメサル様御手配相成度シ

以上岩井ト打合濟

漢口ヨリ重慶ヘ轉電アリタシ

南京、北平、漢口ヘ轉電セリ

~~~~~

298

昭和11年8月9日

在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

岩井書記生が同行者とともに重慶へ向け漢口
出立について

297

昭和11年8月1日

在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

岩井書記生重慶到着後における成都總領事館
再開への措置振り請訓

上海 8月1日夜発

本省 8月1日夜着

第六〇五號

往電第六〇二號ニ關シ

一、岩井ハ一日上海發三日南京ヨリ洛陽丸ニ乗船、九日漢口發信陽丸ニ、十五日宜昌發長陽丸ニ乗替ヘ十八日重慶着ノ豫定ナル處支那側ハ引續キ開館阻止ノ態度ニ出ツルモノト認メラルルニ付テハ差當リ前例ニ依ル外交部及地方官憲ニ對スル赴任通知ノ公文ハ一時發送ヲ見合ハスコトトシ

ニ、重慶到着ノ上

(一) 先ツ地方官憲ニ對シ赴任旅行ニ對スル保護及便宜供與ヲ求メ之ニ應スレハ其ノ儘前進シ

(二) 若シ中央ヨリノ訓令等ニ依リ地方官憲ニテ(一)ノ保護等ヲ承諾セサルニ於テハ總領事館及財産ノ檢分並ニ成都

第一九七號

大使發閣下宛電報第六〇五號ニ關シ

漢口 8月9日後発
本省 8月9日後着

一、岩井ハ警察官三名(内二名妻同伴)邦人自動車運轉手一名並ニ上海ヨリ成都迄同行スヘキ大毎及上海毎日新聞記者各一名及滿鐵社員一名(同行者ニ付テハ大使ニ於テ御承知ノ由)ト共ニ豫定通り九日當地發日清汽船ニテ遼江セリ

ニ、岩井當地滞在中其ノ行動ヲ邦字紙ニ掲載セシメサリシ爲英漢字紙共上海通信ヲ一、二掲出セル以外別段記事論說ヲ掲ケタルモノナシ

支、南京、北平、重慶ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

~~~~~

299

昭和11年8月14日

在漢口三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開問題をめぐる吳沢湘駐川康  
特派員との応酬振りにつき重慶領事報告

第二〇四號

重慶發本官宛電報

第三五號

大臣へ轉電アリ度シ

第三八號

往電第三六號ニ關シ

本官ハ之迄靜觀的態度ヲ持シ岩井當地着後赴任ノ保護ヲ求ムル筈ナリシ處十二日宴會ニ於テ吳澤湘ハ平素ノ好誼ニ對シ甚タ相濟マスト斷リタル上内密ニ岩井ノ當地着期日並ニ單身ニテ來ルヤト尋ネタルニ付數日中着館員ト共ニ赴任スル豫定ナリト答ヘタルニ岩井ノ成都在勤發表ハ二箇月以上ニモナルニ何故外交部ニ通知ナキヤ何故外交部ト話ヲ附ケ來ラサルヤ今ヤ上海、成都ニ於テモ反對運動起リ赴任スルモ省政府ハ勿論何人モ相手ニセサルヘク自分トシテハ如何トモ致方ナキニ依リ解決スル迄當地ニ滞在セシメテハ如何ト切出シタルニ付本官ハ成都總領事館ハ大正七年開館以來十數年ニ及ヒ一時閉鎖セルヲ再開スルニ過キス新ニ開館ス

漢口 8月14日後発  
本省 8月14日夜着

中国紙報道振りについて

漢口 8月15日前発  
本省 8月15日後着

第二〇五號

重慶發本官宛電報

第三六號

大臣へ轉電アリタシ

第三九號

岩井ノ當地到着期近付クト共ニ反對運動ノ記事論文益々新聞ヲ賑ハシ四川旅京同鄉會ハ日本カ成都ニ領事館ヲ設置セントスルニ川人ニシテ起ツテ反對セルヲ聞カサルハ國權保障ノ責ヲ失ヘルモノナリ九、一八以來日本ノ遣口ニ鑑ミ右設置ハ禍心ヲ包藏セスト誰カ之ヲ信セン一致協力之ヲ撤去セシムヘシトノ煽動的ノ通電成都ニ到着セル旨ヲ報シ十三日成都市職業公會、華陽婦女會等數十團體發起ノ下ニ成都市各會民衆反對日本違法在蓉設立領事館籌備會ノ組織準備中ニテ省市黨部ニ對シ指導員派遣方ヲ申請セル旨ヲ傳ヘ居レリ

又當地商務日報ハ十四日ノ社論ニテ成都ハ未開港地ニシテ

ルニアラサレハ今更阻止スル理ナク岩井トシテモ政府ノ命ヲ奉シ赴任スルモノナレハ當地ニ立留マル譯ニ行カスト應酬シタルカ頗ル難色ヲ示シタル上成都佛國領事ハ外交部交渉員ト改稱スルコトナリタリト附言セルニ付當地佛國領事ニ確カメタルニ通知ナキモ右事實ナルヘク雲南モ交渉員ト稱シタルニ付交換條件トシテ西貢ニ支那領事ノ駐在ヲ認メ領事ト改稱セリト内話セリ

尙十三日ノ各新聞ハ岩井ハ一兩日中ニハ重慶着成都行ノ目的ヲ達セントスル處成都ハ開港地ニアラス條約上領事設置ノ理由ナシ日本ノ侵略愈激シク増兵、密輸相次テ起リ四川ノ奧地ニ迄入ラントスルハ別ニ用意アルカ爲ナルヘシ全國各界一致主張シ政府ヲ督促シテ日本政府ニ嚴重抗議シ以テ國權ヲ維持サレ度シトノ學生生活社重慶分社ノ通電ヲ掲ケ居レリ

支、北平、南京へ轉電アリ度シ

300 昭和11年 8月15日

在漢口三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

わが方の成都總領事館再開に反対する重慶の

外交部ノ反對アルニ拘ラス岩井ハ長陽丸ニテ十六日重慶ニ到着スヘク單純ナル政府外交ニテハ效果ヲ收メ難キニ付民族ノ團結ヲ以テ對抗セサルヘカラス學生生活社ノ宣傳ハ岩井未着前ノモノナレハ更ニ一步ヲ進メ組織的計畫的ノ有力ナル反對ヲ爲セト論シ論調字句共ニ漸ク惡化シ來レリ

支、北平、南京へ轉電アリタシ

301 昭和11年 8月19日

在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

川越大使より岩井の成都赴任を外交部へ通報し  
反對世論を嚴重取締るよう申入れるべき旨  
重慶領事より同大使へ要請について

上海 8月19日前発  
本省 8月19日後着

第六五六號

重慶發本使宛電報

第一號

岩井一行十七日午後着渝二十一日當地發赴任ノ筈ナル處同時ニ當地其ノ後ノ情勢説明ノ上赴任ノ段取ニ付篤ト協議ヲ

重ネタルカ貴大使發大臣宛電報第六一三號ニ依レハ周珏ハ堀内書記官ニ對シ本件ハ此ノ上日本側ニ持出スヲ要セサル旨内話シ居リタル趣ノ處電文簡ニシテ支那側ノ真意俄ニ付度シ難キモ右ハ南京側ニテ本件反對ヲ一應引込ムルコトニ決定セル意味ニ解セラレサルニアラス(岩井ノ觀測も同様)果シテ然ラハ南京側内部ノ本件ニ對スル態度ハ相當ノ變化アリ或ハ此ノ上開館阻止ノ態度ニ出ツルコトハナキニアラスヤト認メラルル一方本官累次ノ電報ニテ御承知ノ通り成都並ニ當地方支那側ノ空氣ハ漸次惡化ノ傾向ニアリ現ニ本十八日ノ各新聞ハ大見出ヲ掲ケ岩井到着ノ模様ヲ報道スルト共ニ各學校及團體ハ縣黨部ニ集合反對運動ノ打合會ヲ開キ又商會ハ通電ヲ發スル旨ヲ傳ヘ居リ此ノ儘放置セハ假令岩井成都入ヲ爲スモ何事モ爲シ得サル窮地ニ陥ル惧アルニモ願ミ

此ノ際寧ロ貴大使ヨリ外交部ニ對シ淡白リト岩井赴任ノ日取ヲ御通知方御取計相成ルト共ニ最近ノ當地方民衆運動ノ情勢適宜御指摘ノ上嚴重注意喚起方御配慮相煩度シ尤モ本官ヨリモ當地支那側ニ民衆運動取締方ヲ要求スル積リナルモ當地方ノ運動カ上海、南京ヨリ指導セラレ居ル實情ニ鑑ミ

## 第三九號

大臣へ轉電アリタシ

## 第四二號

本官發在支大使宛電報第一號ニ關シ

本官ハ十九日吳澤湘ニ對シ民衆運動ノ取締方ヲ要求シタルニ吳ハ十八日ノ反對運動打合會ニ於テ游行示威運動ヲ行ハントノ動議モ出テタルカ公安局ニ於テ之ヲ禁止シ結局代表者ヲ當局ニ差向ケ請願スルコトナレルカ今後共行營警備司令部トモ協議ノ上苟モ治安ヲ害スル惧アル行動ハ一切嚴重取締ル旨ヲ言明シ且自分トシテハ成都總領事館再開問題ニ關シテハ一ニ外交部ノ意圖ニ從ヒ措置スルノ外ナキヲ以テ十八日岩井ノ着渝ヲ外交部ニ電報シ執ルヘキ措置振ニ付請訓セリト語レリ

尙岩井ハ豫定通り二十一日赴任ノ積リニテ準備ヲ進メ居レリ

(漢口ヨリ)支、北平、南京へ轉電アリタシ  
電信料三百弗御電送請フ

右様御願スル次第ナリ

尙本官カ今日迄當地官憲側ト接觸ノ結果得タル印象ニ依レハ貴大使發大臣宛電報第六〇五號第二項ノ(一)ノ如ク措置スル場合支那側ニ於テ外交部ヨリ通知ナキ限り之ニ應スルコト萬ナカルヘキカニ察セラルル處吳澤湘ノ如キハ岩井カ個人ノ資格ニ於テ旅行スルコトハ差支ナキ旨言明シ居ル次第ニモアリ旁前述我方通知ニ對スル支那側ノ出方ヲ見極メタル上第二項(二)ノ措置ヲ執リ岩井ノ任務達成ニ萬全ヲ期シ度キ所存ナリ

大臣、北平、南京、漢口へ轉電アリ度シ

## 302 昭和11年8月20日

在漢口三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

わが方成都總領事館再開への反對運動取締方  
重慶領事より吳沢湘へ申入れについて

漢口 8月20日前發

本省 8月20日後着

## 第二一〇號

重慶發本官宛電報

## 303 昭和11年8月20日

在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

岩井の成都赴任を延期するようわが方政府へ  
取り次ぎ方徐謨外交部政務次長より申越しに  
ついて

南京 8月20日後發

本省 8月20日夜着

## 第五八六號

重慶發閣下宛電報第三九號ニ關シ

二十日他用ヲ以テ徐謨ニ面會ノ際徐ヨリ吳澤湘ヨリノ報告ニ依レハ岩井ハ最近成都ニ赴ク由ノ處同方面ノ空氣極メテ險惡ニシテ着任スルモ不愉快ナルヘシト思ハルルニ付此ノ際兎モ角更ニ良好トナル時機迄延ハサルル様政府ニ申送ラレ度シトテ支那側ノ法律的建前ヲ繰返セルニ付本官ヨリ實ハ重慶ヨリノ電報ニ依レハ同方面ノ新聞論調等惡化シ居ル様子故右嚴重取締方手配アリ度シ尙今頃此ノ種問題ヲ持出ス支那側ノ馬鹿サ加減ハ了解シ苦シム所ナルカ要スルニ貴方ノ言分ハ一應政府ニ取次ハスヘキモ日本カ一時閉鎖シタル他ノ領事館同様單ニ再開ノ手續ヲ執リタルニ對シ過去ノ

行懸ヲ無視シ而モ新聞通信等ヲ通シテ先ツ反對ヲ爲サシメタル上再開延期ヲ申出テタリトテ應シ得ラルヘキモノニアラサルハ茲ニ前以テ答ヘ得ヘク若シ法律的ニ疑義アル次第ナラハ宜シク進ンテ成都ヲ開埠地トスルコトニ我方ト打合ヲ爲スコト可ナルヘク又差當リ吳澤湘ニ對シ新聞等ヲ取締リ事端ノ發生ヲ見サル様訓令方強ク申入レタルニ徐ハ本官ヨリ兎モ角延期方ヲ政府ニ取次クニ於テハ早速右吳ニ訓令スヘシト答ヘタルカ其ノ際ノ印象ニ依レハ我方ハ豫定通り進行シ差支ナカルヘシト考ヘラル

支、北平、漢口、重慶へ轉電セリ

304 昭和11年8月21日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

岩井を個人旅行の建前で成都に赴かせ現地に  
て折衝するよう重慶領事宛訓令

上海 8月21日後発  
本省 8月21日夜着

第六六三號  
本使發重慶宛電報

成都總領事館再開問題は現地当局の態度に鑑  
み中央政府に対し嚴重交渉あるよう岩井書記  
生意見具申

上海 8月22日後発  
本省 8月22日夜着

第六六四號  
重慶發本使宛電報

第二號  
岩井ヨリ

本官成都入モ糟谷領事段々ノ御盡力ニ拘ラス支那側ハ本官ヲ非法領事トシテ面會ヲ忌避シ居リ遂ニ同領事發大臣宛電報第四四號ノ局面ニ到達シタル處元來今時支那側カ本件反對ノ態度ニ出ツルニ至リタルハ要スルニ(一)南京政府ノ國內統一傾向西南解決ニ依リ益々強化セラレ彼等ニ自信ヲ與ヘタルコト(二)右傾向並ニ日支國交調整ノ掛聲ニ依リ兩國關係從前ニ比シ比較的安定ヲ保チツツアル爲歐米諸國ノ對支關心再ヒ高マリ來リ彼等ヲシテ益々歐米依存我方輕侮ノ念ヲ起サシムルニ至リタルコト並ニ昨年來ノ華北問題ニ對スル我方措置振及ニ、二六事件ノ發生ニ依リ我方ノ支那側ニ對

第一號  
貴電第一號ニ關シ

周珏ノ内話ハ外交部ニ於テハ此ノ上反對的態度ヲ勸メサルヘシト云フニ止マリ今直ニ我方ヨリ正式又ハ非公式ニ本件承認ヲ迫ルモ貴地方現在ノ空氣ニモ鑑ミ到底外交部ヲ納得セシメ難ク却テ事態ヲ紛糾セシメ益々岩井ノ立場ヲ困難ナラシムル惧アリト考ヘラルルニ付貴電末段ノ如ク此ノ際本使發大臣宛電報第六〇五號第二項(一)ノ申入ヲ爲スモ地方官憲ニ於テ之ニ應セサルヘシトノ見込ナルニ於テハ吳澤湘カ個人トシテノ旅行ニハ差支ナシト言ヒ居ルヲ利用シ同項(二)ノ要領ニ依リ適當ノ時期ヲ見計ヒ兎モ角岩井ヲ成都ニ赴カシメ支那側各方面トノ個人的折衝ヲ計リ漸次調査乃至情報ノ蒐集等ニ取掛ルト共ニ地方ノ空氣靜マルヲ俟チ徐ニ外交部ニ對スル正式申入ヲ考慮スルコトト致度キニ付右方針ニテ此ノ上トモ御努力相成度シ

大臣、北平、南京、漢口へ轉電セリ

305 昭和11年8月22日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

スル壓力何トナク弱メラレタルヤノ印象ヲ一般ニ與ヘ彼等ニ日本與シ易シトノ錯覺ヲ抱カセタルコト根本原因ト觀測セラレ其ノ事態ハ恰モ滿洲事變前當時ヲ髣髴セシムルモノアリ前途誠ニ油斷ナリ難キ情勢ニアリ從テ我方既得權益トモ云フヘキ本問題ノ措置振如何ニ依リテハ自今支那側ノ我方ニ對スル態度ヲ全面的ニ益々強化セシメ今後ノ對北支政策ノ上ニモ面白カラサル影響ヲ及ホスニ至ルヘシ一方四川ノ地ハ聞キシニ優レル天賦ノ地ニシテ今日迄我方ノ進出何等見ルヘキモノナキニ拘ラス英、米、獨、佛等諸國ハ夙ニ此ノ地ニ着眼シ現ニ其ノ活躍目覺シキモノアルニハ一驚ヲ喫セリ

我方ニ於テ今ニシテ既得權益ヲ死守シ之カ伸張ヲ計ルノ決意ナクンハ將來此ノ地ニ帝國ノ優越地位ヲ確立スルハ愚カ列國競爭ノ仲間ニ割込ムコトスラ困難ナルニ至ルヘク結果我大陸政策遂行ノ最重要前進據點ヲ失フニ至ル惧アリ此ノ見地ヨリスルモ成都總領事館ノ再開活動ハ是カ非デモ一日モ速ニ實現セシムル要アリ

然ルニ本件ノ處置ニ至リテハ糟谷領事稟次ノ電報ニテ御承知ノ通り地方當局ハ本件ノ如キ性質上中央ノ交渉ニ俟ツヘ

キ問題ニ對シテハ全然無力ニシテ之ヲ相手ノ地方的折衝ノ如キ殆ト無意味ナル實狀ニアルニ付テハ貴大使ニ於カレテハ問題ノ重要性ヲ篤ト御賢察ノ上例ヘハ南京發大臣宛電報第五八六號ノ如ク支那側ヲシテ成都ヲ商埠地トシテ自開セシムル位ノ氣構ニテ強ク支那側ヲ抑ヘ付ケ速ニ堂堂々再開シ得ル運ナル様御力添アランコト切望ニ堪ヘス右僭越ヲ顧ミス卑見申進ス

大臣、北平、南京、漢口へ轉電アリタシ

306 昭和11年8月22日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

航空券の販売拒否や便宜供与の拒否など重慶  
官民の阻止活動により岩井の成都出發一時延  
期について

上海 8月22日後發  
本省 8月22日夜着

第六六七號(至急)  
漢口發本使宛電報  
第一二號

度ク然ラハ護照ノ加印、切符ノ購入等ニ付テモ斡旋スヘク吳自身モ岩井ト同行スルカ一兩日遅レテ成都ニ赴キ民衆運動ノ取締ニモ任スヘシ(岩井ノ行動監視ノ爲ナルヘシ)ト稱シ種々説得スルモ民衆ノ激昂ト地方官憲ノ立場上保障ナキ限り個人旅行トシテモ取計ヒ難シト便宜供與ヲ肯セス已ムヲ得ス岩井ハ一先ツ出發ヲ延期セリ

四川中央化ノ今日中央ニ於テ未解決ノ本件ヲ地方的交渉ニテ此ノ上進捗セシムルコト困難ニシテ結局岩井ノ成都行達成ノ手段トシテハ

(一)大使館ノ御盡力ニ依リ少クトモ(脱?)ハ暫ク措クモ外交  
部ヲシテ岩井ノ成都行ヲ容認セシメ當地官憲ニ通知セシム

(二)右本官保證ノ下ニ單ナル私人ノ資格ニテ旅行ス

(三)岩井攜帶ノ自動車ニテ支那側ノ反對ヲ押切り強行スルカ  
徒歩旅行ヲ爲ス

ノ外ナキ處若シ(一)ニシテ纏マラハ最好都合ナルカ(二)ハ保證  
ニ際シ解決迄ノ一時的ノモノトシテノ條件ヲ附スルモ右ハ  
結局我方最後ノ立場ヲ弱メ自繩自縛ニ陥ル惧アリ(三)ハ忽チ  
支那側ノ阻止ニ遭ヒ衝突ヲ免レス延イテハ事件ヲ擴大シ當

重慶發本官宛電報

第四〇號

大臣へ轉電アリタシ

第四四號

本官發支宛電報第一號ニ關シ

當地支那側ハ大使發閣下宛電報第六〇五號第二項ノ(一)ハ到底之ヲ承認セサルヲ以テ岩井ハ同電報第二項(二)ニ依リ不取敢巡查二名ヲ帶同飛行機ニテ赴任ノ手筈ヲ爲シ切符ヲ購入セントシタルニ航空會社ハ故意ニ販賣セス右ハ請願團ノ岩井西上阻止運動モアリ官憲側ト會社トノ間ニ連絡アルモノト認メラレタルヲ以テ二十日吳澤湘ニ面會右ノ事實ヲ指摘シタルニ吳ハ普通ナラハ外務省官吏タル岩井ノ成都行ニ充分便宜ヲ供與スヘキハ勿論ナルモ成都總領事館再開ノ任務ヲ帶ヘルハ周知ノコトナレハ成都着後領事官ノ職務ヲ執行シ例ヘハ國旗及看板ヲ掲クル等開館事務ヲ行フ懸念多分ニアルヲ以テ私人ノ資格ニテ成都ニ赴クコトハ素ヨリ差支無キモ右ハ職務ニ全ク關係ナク純然タル私人遊歴ノ範圍ニ限り萬一岩井ニシテ右行動ニ出テタルトキハ本官ニ於テ責任ヲ以テ退出セシムルコトヲ文書交換ノ方法ヲ以テ保障サレ

地方一般ノ排日ニ轉化スルノ惧アリ我方ニ重大決意ナキ限り實行不可能ナリ就テハ(一)ニ依ルヲ最適當ト認メラルルニ付此ノ方法ニ依リ強硬ニ交渉シ目的ヲ貫徹スル様御配慮ヲ希望シテ止マサルカ若シ(一)ノ見込ナケレハ當地成都間ノ交通機關ヲ支那側力差押ヘ阻止ノ態度ニ出テ居ル以上岩井ヲ豫定通り成都入ヲセシムル爲ニハ(二)ノ方法ニ依ルノ外ナキヤニ思考セラルル處右ニテ差支ナキヤ何分ノ儀至急御回訓ヲ請フ(岩井ト協議済)

支、北平、南京へ轉電アリタシ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

307 昭和11年8月24日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開問題は外交部を説得するよ  
リ方法なきところ相当の時日を要すべき見込  
みについて

上海 8月24日後發  
本省 8月24日夜着

第六六八號

重慶發貴大臣宛電報第四四號ニ關シ  
同電(二)及(三)ノ方法ハ何レモ不可ナルニ付此ノ上ハ同電(一)ノ如ク更ニ外交部ヲ説得スルヨリ外ナキ處南京發貴大臣宛電報第五八六號ニテ明カナルカ如ク右説得迄ニハ尙相當ノ時日ヲ要スヘキニ付夫迄ハ岩井ヲシテ重慶ニ待機セシムルヨリ外ナシト存ス尤モ現地ノ狀況ヨリ見テ冒頭電ノ如ク重慶領事ノ保障ナシニ外務書記生ノ資格ニテ成都ニ赴キ得ル様出先ニ於テ話合ヲ付ケルコトハ困難ナルヘキモ此ノ上共盡力セシムルコト然ルヘシト存ス爲念  
北平、南京、漢口、重慶へ轉電セリ

308 昭和11年8月24日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館の再開承認を求める文書を外交部へ手交し本件に対する中国側態度を嚴重抗議について

南京 8月24日後発  
本省 8月24日夜着

第五九六號

ムルコトトセルニ拘ラス日本ノミ領事官トシテ執務セシムルニ於テハ今後各國ヨリモ之ヲ先例トスル主張アルヘク又御申出モアリ成都開放方ヲモ一應考ヘタルカステハ日本ノミナラス各國ニ開放スルコトトナリ今後他ノ都市ヲモ漸次開放スルノ已ムナキニ至ルコトトモナルヘク面白カラス旁豫テ暫駐領事トシテ認メ居タルニ過キサルニ付滿洲事件後ノ引揚ニ依リ暫駐ハ打切ラレタルモノト看做シ度キ所存ナリト言ヘルニ依リ本官ヨリ右申出ハ何レモ不合理ナルカ假ニ暫駐打切ヲ爲サントスル場合ト雖一方的ニハ爲シ得サルコト又本件ニ關シ我方ハ嘗テ支那側ヨリノ交渉ニ接シタルコトナキニ突如トシテ今回ノ行動ニ出テラレタルハ何トシテモ容赦成リ難シト強ク申聞ケタルニ陳ハ相當恐縮シ居タリ  
支、北平、漢口、重慶へ轉電セリ

309 昭和11年8月26日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

成都事件發生に乗じて岩井の成都赴任を容認するよう積極的に国民政府へ要求すべき旨重

(1) 重慶發閣下宛電報第四四號ニ關シ

往電第五八六號徐謨言明ノ次第モアリ本二十四日陳介ニ對シ先ツ吳澤湘ニ訓令濟ナルヤヲ質シタルニ御來談ノ次第ハ張部長ニ電報スルト同時ニ吳ニモ電訓濟ナリト言ヘルニ依リ本官ヨリ果シテ然ラハ岩井赴成ノ切符サヘ賣ラサル事實ノ如キ我方官吏ノ正當ナル職務執行ヲ妨害スルモノニシテ斷シテ容認シ難キ旨ヲ力説スルト共ニ元來成都カ非開埠地ナル故ヲ以テ赴任ヲ阻止セントスルモ十八年前ヨリ既ニ存在シタル事態ヲ顧ミス直ニ事實上ノ妨害行爲ニ出テ且何等正式交渉ノ措置ニ出ツルコトナク新聞等ノ反對氣勢ヲ利用シ事茲ニ至ラシメタルハ殊更日支關係ヲ惡化セシムル爲ノ非友誼的行爲ト見ルノ外ナク然ラサレハ宜敷成都ヲ開埠地ト爲シ支那國內法上我方領事官ノ駐在ヲ合法化セシムル外ナカルヘキ旨ヲ説明シ(一ツ書手交、郵報ス)岩井ノ赴任並ニ總領事館再開ニ付便宜供與方ヲ求メタルニ  
陳ハ實ハ既ニ廬山ニアル張群ヨリ劉湘ニ對シ隱便取計方簡單ニ電報シ居ル様ニモアリ又同部長ハ二十六日飛行機ニテ歸寧ノ筈故其ノ上篤ト相談致スヘキニ付暫ク猶豫アリ度シト申出テ只支那トシテハ佛蘭西ヲ交渉員(Delegate)ト認

#### 慶領事意見具申

上海 8月26日前発  
本省 8月26日後着

第六七三號

重慶發本使宛電報

第四號

本官發大臣宛電報第四五號ニ關シ

本件ノ發生ニ依リ成都再開問題モ情勢ニ一大變化アリト見ルヘク支那側トシテモ重々恐縮シ居ル際ナレハ岩井ノ赴任ヲ支那側ニ押付ケ地方當局限りノ了解ニテ成都ニ乗込マシメ本件善後措置ニ當ラシムルコトモ一案ト考ヘラルル處既ニ岩井ノ問題ニ關聯シ本件發生ヲ見タル矢先ノコトニテモアリステハ事態ヲ一層惡化セシムル惧モアル一方(吳澤湘ノ如キハ岩井ノ外出スラ差控エラレ度シト言ヒ居レリ)事態斯クナリシ上ハ我方ノ立場愈有利ニ展開シタル譯合ナレハ旁此ノ際寧ろ貴大使ニ於カレテ南京政府ヲシテ從來ノ反對抗議ヲ撤回セシメ岩井ヲシテ堂々赴任セシメ得ル様至急御手配相成度シ(岩井ト協議済)  
大臣、北平、南京、漢口へ轉電アリタシ

310 昭和11年9月2日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

岩井の成都赴任を徐謀が非公式かつ極秘の含  
みにて承認し赴任実行は数か月後とされたき  
旨回答について

南京 9月2日後発  
本省 9月3日前着

第六三二號(極秘)

往電第六二九號ノ三ニ關シ

本二日徐謀ヨリ今一應成都設領問題ニ關スル我方ノ建前ヲ  
承り度シト述ヘタルニ付本官ヨリ更ニ議論ヲ續クル爲ナラ  
ハ既ニ前回ノ會見ニ於テモ盡シ居ルコト故更ニ繰返シ難シ  
ト言ヒ張りタルニ徐ハ昨(日)ノ會見ニ於テ張部長ヨリ申上  
ケタル通り本日大體結末ヲ着ケ度キニ付今一應ノ御説明ヲ  
仰キ度シト申出テタルニ依リ我方ノ既得權益ナル次第ヲ往  
電第五九六號ノ趣旨ニ依リ繰返シタルニ徐ハ又復支那側ノ  
言分ヲ述ヘ立テ(往電第五八六號)カケ且本件ヲ成都事件其  
ノモノト同時ニ解決ヲ主張セントシタルニ付本官ハ之ヲ遮  
リ如何ナル點ヨリスルモ我方ノ建前ハ一點ノ弱點ナキニ付

解決するよう中国側へ要求した理由について

南京 9月2日後発  
本省 9月3日前着

第六三四號

往電第六三〇號ニ關シ

一、蔣介石ノ張群宛電報ナルモノノ内容ハ知ルニ由ナキモ昨  
一日張群及本二日徐謀トノ會談ヨリ得タル印象ニ依レハ  
元來張群ハ成都事件解決ノ一條件トシテ領事館設置ヲ認  
メ之ニ依リ他ノ條件ノ緩和ヲ來サシメント策シタルニ蔣  
ハ成都事件ノ解決ヲ冒頭往電ノ如ク簡單ナルモノトシ領  
事館設置ノ如キモ本件ノ結果日本ヨリ確認ノ已ムナキニ  
至ラシメラレタリトノ觀ヲ避クル爲別問題トスルコトヲ  
主張シタルモノノ如シ

二、尚岩井ノ成都行ヲ兎モ角認メシメ置クノ得策ナル點ニ付  
テハ豫テ糟谷領事ヨリモ申出ノ次第アリタルカ(重慶發  
支宛電報第四號)一方支發青島宛電報第三六號ノ二ノ二  
ニ於テハ領事館設置ニ關スル我方既得權確認方ヲ本件解  
決條件ニ加ヘアルモ本官カ事件發生後支那側ヨリ得タル  
印象ニ依レハ條件中ニ確認セシムルニ於テハ支那側ハ逆

支那側協議ノ結果丈ケヲ承知シ度シト詰寄レルニ徐ハ結局  
然ラハ非公式且極秘ノ御含ニテ申上クル譯ナルカ岩井ノ赴  
成ハ差支ナシト茲ニ言明スヘシ但シ赴成ノ時期ニ付テハ事  
件ノ直後ニモアリ今暫ク(例ヘハ數箇月)待チタル後ニ更ニ  
相談ノコトトシ度シト言ヘルニ依リ本官ヨリ右ハ事件前ノ  
我方既得權益(status quo ante)ヲ確認シタルモノト解シ差  
支ナカルヘシト念ヲ押セルニ然リト答ヘタルニ依リ本官ヨ  
リ又時期ハ何モ數箇月等ト切ル必要モナク何レ事態ノ改善  
ヲ見テ實行方然ルヘシト押セルニ徐ハ大體之ヲ承諾シ兎モ  
角時期ニ付テハ支那側トモ相談シテ決定セラレ度シト申出  
テタリ

尚徐ハ本日ノ話合ハ暫ク極秘トスル様再三願出テタルニ付  
承諾シ置ケリ

支、北平、在支各總領事、厦門、重慶へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

311 昭和11年9月2日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開を成都事件と切り離して迅速

ニ日本カ無理強イニ岩井一行ヲ送りタル爲本件勃發ヲ見  
タリトシテ責任ヲ我方ニ轉嫁セントスル手ヲ考ヘ居ルヤ  
ニモ認メラレ(翁文灝ノ如キ然リ)又累次報告ノ通り岩井  
ノ赴成ハ我方當然ノ權益ナルコトヲ強調シ來リタル建前  
上本件ハ前半ノ條件ト切離シ而モ事前ニ確認セシメ置キ  
度シト存シ三十日上海ニ於テ川越大使トモ打合ノ上往電  
第六三二號ノ點迄漕着ケタル次第ナリ爲念

支、北平、天津、重慶へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

312 昭和11年9月5日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

成都赴任に当たっては不祥事件の再発防止の  
ため自衛施設の整備が必要の旨岩井書記生よ  
リ意見具申

第七三二號  
重慶發本使宛電報

上海 9月5日前発  
本省 9月5日前着

第一九號

大臣へ轉電アリタシ

第六九號

岩井ヨリ

一、成都總領事館再開問題モ今次成都事件ノ發生ニ依リ解決促進セラレ既ニ南京須磨總領事ノ御折衝ニ依リ南京外交部當局ニ於テ原則的承認ト言フ所迄漕着ケ得タルハ寔ニ慶幸ニ堪ヘサル次第ナル處今回ノ不祥事件發生ニ顧ミ再開後ニ於ケル帝國總領事館ノ保護乃至警備ノ問題ハ此ノ際慎重攻究ノ要アリト存セラル

二、即チ成都事件前後ノ狀況及事件當時ノ模様等ヨリ判斷セハ假令今次事件解決シ支那側ヨリ再開後ノ我方總領事館ニ對シテモ充分保護スヘキ旨ノ言明ヲ取付ケ得タリトスルモ果シテ何程信賴シ得ヘキヤ大ナル疑問ニシテ右ハ邦交敦睦令下ニ於テ公然日支關係ヲ阻害スル言論並ニ運動カ行ハレ遂ニ今次事件ノ發生ヲ見タル一事ニ徴シテモ明カナルカ又假令百歩ヲ譲リ事件解決當座ハ當分問題起ラストスルモ對日抵抗最後ノ根據地ヨリ強力ナル我方機關ヲ排除セントスル彼等ノ熱意ハ容易ニ變ラサルヘク從テ

如何ナル機會ニ如何ナル術策ヲ策シ追出策ヲ講スルヤモ知レス又現下ノ四川及一般國內情勢ヨリ見レハ支那側ノ言フ如ク共產黨、反政府分子カ南京政府ヲ窮地ニ陷レル爲豫知シ得サル奸策ヲ弄シ得ル餘地モアル次第ニテ危機尙到ル處ニ伏在ス

三、從テ今後遽ニ支那側ノ言明ニ信賴シ輕々ニ成都ニ乘込ミ開館ノ曉萬一例ヘハ我總領事館カ其ノ如何ナル種類ノモノニモセヨ或ハ襲撃セラレ或ハ本官ニ危害ヲ加ヘラルルカ如キ事態(殊ニ本官ハ上海情報部時代ノ工作ノ關係上藍衣社ノ怨ヲ買ヒ居ルコト鮮カラス而モ四川カ同社ノ一大根據地ナルニモ鑑ミ今回ノ本官阻止運動ノ如キモ多少彼等ノ反感モ手傳ヒ居レリト想像シ居ル次第ナリ)再度發生スルコト絶無ト言フヘカラス果シテ然ラハ右ハ單ニ國威ヲ失墜スルノミナラス内政上ニモ重大ナル政府ノ責任問題ヲ惹起スル惧アリ

四、就テハ今次事件ノ解決交渉ニ當リ再開後ノ成都總領事館及本官等ノ身邊ニ對シ支那側ノ有效適切ナル保護ヲ求ムル必要アルハ勿論ナルモ同時ニ單ニ夫レノミニ依賴セス我方トシテモ最低限度暴徒ノ襲撃位ニ對シテハ防禦出來

得ル丈ケノ自衛施設ヲ整備スル等適宜今回ノ如キ不祥事件ノ再發ヲ防止スルコト絶對必要ナリト思料セラル右ハ申迄モナク本省ニ於テ既ニ御攻究中ノコトト存セラルルモ爲念(槽合領事モ同意見ナリ)

(支ヨリ)南京、北平、漢口へ轉電アリタシ

313 昭和11年9月9日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

岩井の成都赴任時期に関する張群との応酬振りについて

南京 9月9日前発  
本省 9月9日前着

第六六〇號

本官發支宛電報

第六八〇號

大臣宛貴電第七三九號及大臣宛往電第六五〇號ニ關シ本八日打合ノ趣旨ニ從ヒ張群ニ對シ岩井ハ茲五日乃至一週間ニ赴蓉セシメ度キニ付成都市政府ノ家主ニ對スル不法壓迫ヲ取消サシメ同地各機關ニ對シ充分ナル保護並ニ便宜供

與方至急取計フ様申出テタルニ張ハ沈痛ナル面持ニテ四川ハ内政上機微ナル關係アリ昨年迄ハ中央ノ威令一向行ハレサリシ所ナレハ恥曝ラ餘程ノ準備工作ヲ爲スニアラサレハ御希望ニハ應シ難キニ付既ニ吳澤湘ヲモ呼寄せ(本日來寧ノ筈)近狀聽取ノ筈故何レ其ノ報告ヲモ聽キ成ルヘク早目ニ手配ハスヘキモ御申出ノ如キ短期間ニハ困難ナルヘシト答ヘ更ニ昨七日中央黨部側ニ夫レトナク岩井ノ赴蓉ヲ仄カシ自分トシテハ出來得ル限り速ニ實現方精々努力中故御信賴アリ度シト言ヘルニ對シ本官ヨリ岩井ノ赴蓉ハ我方當然ノ權利ナレハ原則トシテ領事館再開ヲ認メツツ事實實現ヲ遷延スル策ニ出ツルカ如キハ斷シテ承知シ難ク又本件ト併セテ成都總領事館賠償事件解決並ニ同總領事館ノ「ステータス」ヲ確實ナラシムル爲現在ノ借家ヲ賣却セシムルカ新ナル敷地ヲ提供スル等ノ方法ヲモ立テラレ度キ旨ヲ強調シ至急手配ノ上通知方強ク念ヲ押シ置キタリ

大臣、北平、在支各總領事、厦門、重慶へ轉電セリ  
上海へ轉報アリタシ

314 昭和11年9月16日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

岩井の成都赴任に關し迅速實現方張群へ申入  
れについて

南京 9月16日前發  
本省 9月16日前着

第六九五號(極秘)

川越大使ヨリ

十五日張群ト會談ノ際成都總領事館再開問題ニ關シ本使ヨリ同總領事館ハ當方ノ都合ニテ一時之ヲ閉チ今回再開ノコトトナリ總領事代理モ既ニ重慶ニ滞在シ居リ速ニ赴任セシムル豫定ナル處之カ再開ニ關スル障礙ヲ速ニ除去スル様既ニ須磨ヨリ申入レタルカ支那側ニ於テ何等措置ヲ執ラレタリヤト問ヒタル處張ハ過日須磨ニ對シテ爲シタル言葉ト同様領事館再開ハ原則トシテ差支ナキモ現地ノ狀況等ヲ詳細取調ヘ領事ノ赴任ニ差支ナキ様折角努力中ニシテ現ニ重慶特派員吳澤湘ヲ招致シ實地ノ報告ヲ聽取シタルカ成都ハ今尙戒嚴令中ニテ不安ナル狀態ナル趣ニテモアリ近ク更ニ省政府ヨリ人ヲ呼寄せ協議スル手筈トナリ居リ出來得ル限り

速ニ貴意ニ副フ様取計フヘシト答ヘタルニ付本使ハ繰返シ其ノ速ナル處置ヲ要求シ置ケリ

支、北平、在支各總領事、厦門、重慶へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

315 昭和11年12月30日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

成都および北海兩事件の解決と同時に成都總領事館再開を実施することは中国側の国内事情から困難の旨高宗武説明について

南京 12月30日後發  
本省 12月30日夜着

第一一六〇號

本官發重慶宛電報

第一四號

往電合第六九九號ニ關シ

成都總領事館再開至急實施方ニ付テハ引續キ支那側ヲ督促シ居ル處本三十日高宗武ハ本官ニ對シ徐謨、張群及高二於テ屢次言明ノ通り再開及岩井ノ赴蓉ニハ勿論異存ナキモ冒

頭往電兩事件ノ解決ト同時ニ本件ヲ實施スルコトハ支那側對内關係上苦シキノミナラス先般來電照中ナルモ未タ劉湘ヨリ本問題ニ關スル都合ニ付テモ返電ナキニ付今暫ク待タレ度シト述ヘタルニ付本官ヨリ此ノ上トモ取急ク様嚴重申入レ置キタリ

大臣、支、漢口へ轉電セリ

316 昭和12年1月18日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館の再開は西安事件の完全解決後  
とされたき旨高宗武回答について

南京 1月18日後發  
本省 1月18日夜着

第三六號(極秘)

往電第二五號ニ關シ

須磨ヨリ

十八日高宗武ヨリ上海ニ於テ張群ト篤ト打合ノ結果ナリトテ成都ノ再開ハ西安事件モ未タ片付カス成都ハ西安ト近接シ居ル關係モアリ事態ノ推移ニ依リテハ百「パーセント」

安全ナリト言フヲ得ス且三中全会モ近々開會セラルル處之

ニ對スル政府ノ立場モアリ今直ニ實施セラルルハ困ル次第ナルカ日限ヲ定ムヘシトノ御要求モアリ今ヨリ一箇月位後再開セラルルコトニ異存ナシ吳澤湘ヨリハ岩井ハ二十一日赴成ノ豫定ニテ準備シ居ル旨報告アリタル處前述ノ事情ニモアリ延期方御取計アリ度シト申越シタルカ本件ニ付テハ本官歸朝前更ニ張群ト會見ノ上セツツクヘキ處已ムヲ得サルニ於テハ更ニ張ヨリ言質ヲ取リタル上今後一箇月位再開延期方承認スルコトト致スヘキニ付御了承ヲ請フ

上海大使、重慶へ轉電セリ

317 昭和12年4月1日 在中国川越大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開を原則的に承認しながら口実を設けて実施を遷延する中国側態度への対応措置につき岩井書記生より意見具申

第二二六號

南京 4月1日後發  
本省 4月1日夜着

重慶發本使宛電報

第三號

大臣へ轉電アリタシ

第一號

岩井ヨリ

成都總領事館再開問題ニ關スル南京大使發閣下宛屢次ノ電報ニ依レハ我方督促ニ對シ支那側ハ其ノ都度又其ノ人ニ依リ種々異リタル口實ヲ設ケ徒ニ遷延ヲ事トシ誠意ノ毫モ認ムヘキモノナク殊ニ最近ニ至リテハ中央對四川關係惡化ノ如キ今ニ始マリタル問題ニモアラサル問題ヲ口實ニ五月一日再開ノ實施スラ到底引受ケ難キ旨述ヘ居ル趣ナルカ(南京大使發閣下宛電報第一九一號)右ハ殘念乍ラ支那側ニ於テ飽迄再開ヲ阻止シ了セン魂膽ト見ルノ外ナク而モ我方ニ於テ之以上「プツシユ」スル手モナシトセハ早急ノ再開始ト望ナキヤニ思料セラルル處果シテ然ラハ此ノ上支那側ノ遷延策ニ引摺ラレ荏苒日ヲ送ルコトハ如何ニモ不體裁ナレハ寧ロ此ノ際早キニ及ンテキツパリト我方ノ態度ヲ決定スルコト必要ニシテ例ヘハ支那側カ中央對四川關係ノ惡化ヲ口實ニシ居ルヲ逆用シ支那側ニ對シ内政不統一ノ爲安全保

或ハ本官ノ取越苦勞ニ過キサルヤモ計ラレス夫レナラハ本官トシテモ洵ニ張合ノアル次第ナル處何レニセヨ本官心得迄ニ本件ニ對スル本省ノ御意嚮乃至御見込等御差支ナキ限り承リ置キ度ク萬一他ノ種々ナル考慮ヨリ本件ニ付當分之レ以上積極的態度ヲ執ラサルト言フコトニテモアラハ前記本官ノ立場等モ篤ト御諒察ノ上本官ノ進退ニ付テモ何分ノ御指示賜リ度シ

右ハ本省ニ於カレテモ夙ニ御考慮中ノコトトハ萬々承知致シ居ルモ支那側最近ノ出様ニモ鑑ミ爲念

以上槽谷領事モ同意見ナリ

318 昭和12年5月22日 佐藤外務大臣より  
在中国日高臨時代理大使宛

成都總領事館再開問題に關する今後の措置振

リ訓令

亞一機密第五九號

昭和拾貳年五月廿貳日

外務大臣 佐藤 尙武

在中國臨時代理大使 日高 信六郎殿

障出來スト言フナラハ適當ノ時機迄再開ヲ延期スヘキカ從來ノ行懸リモアリ事此處ニ至レル事情ヲ天下ニ公表スヘキ旨申入ルルト共ニ右理由消滅ノ上ハ直ニ再開差支ナキ旨ヲ更メテ堅ク(例ヘハ文書ニテ)約束セシムル等ノ措置ニ出ツルコトモ一案ナルヘク右ノ如クセハ國內統一完成ノ僞裝ニ腐心シ居ル國民政府ノ痛イ所ヲ突クコトト爲リ却テ其ノ反省ヲ促シ再開促進ノ一助トモナリ得ヘキヤニモ存セラル何レニモセヨ事態今日ノ如クナリテハ本官ノ當地滞在モ支那側ニ何等ノ痛痒ヲ與ヘサルノミナラス聊カ暖簾ニ腕押シノ感サヘアル一方本官個人トシテモ來渝以來七箇月有半一寸シタ外出ニモ「スパイ」ニ尾行監視セラレ又當初ヨリ支那側ニ於テ本官ノ資格ヲ否認シ居ル關係上日支關係ノ會合ニハ何時モ除ケモノニサレ恰モ日蔭者ノ如キ不愉快極マル日ヲ送り居レル處右ハ本官一個ノ面目問題タルノミナラス延イテハ帝國政府ノ威信ヲモ傷クル惧アルニ加ヘ既ニ支那側官民トノ往來出來ストセハ重慶領事輔任ノ任スラ充分果シ得サル次第ニテ本官之レ以上待機ハ殆ト無意義カト存セラル

尤モ右ハ交渉ノ表裏充分承知スルニ由ナキ當地ノコトトテ

成都總領事館再開方ニ關スル件(極秘)

(欄外記入) 成都總領事館ノ再開ハ支那側内部ノ事情ニ依リ今尙解決ヲ見ルニ至ラサル處從來ヨリノ建前モアリ當方トシテ本件ヲ此ノ儘無碍ニ放任シ置キ難キ次第ハ既ニ御承知ノ通ナリ。

就テハ委細別紙ニ依リ御承知ノ上成ルヘク速ナル機會ニ本件解決ヲ見ル様此ノ上トモ御盡力相成度此段申進ス

追テ成都ハ問題ノアリタル土地柄ニモアリ、正式開館ヲ急クノ餘リ不測ノ事態ヲ發生セシムルカ如キコトナキ様十分注意ノ要アルコト勿論ノ儀ニテ又別紙(4)ノ發表ニ當リテモ支那側トノ間ニ無用ノ論議ヲ再發セシメサル様慎重考慮ノ要アリト思考シ居ル次第ナルニ就テハ此ノ點併セテ御含置相成度シ

本信竝ニ附屬書寫送付先

上海、北平

(別紙)

成都總領事館再開方ニ關スル件

(十二、五、十一、決裁)

二從來ノ經緯

319

昭和12年6月9日 在中国日高臨時代理大使より  
広田外務大臣宛(電報)成都總領事館再開問題に關し四川省の治安狀  
況改善方努力中と王寵惠回答について南京 6月9日後発  
本省 6月9日夜着

(欄外記入)  
支那側ノ態度ニモ鑑ミ從來ノ如ク先ツ岩井ヲシテ正式開館セシ  
メムトノ方針ニテハ解決ノ見透ツケ難キ次第ナルカ一方岩井ノ  
身分ノ點ヨリ云フモ岩井ハ成都在勤ヲ命セラレ居ル爲此ノ點片  
附カサル限り同人ヲ他ニ利用スルノ途ナキ次第ナリ

~~~~~

ス(即チ支那側トノ關係カ(1)又ハ(2)ノ何レタルヲ問ハ
ス我方トシテハ成都總領事ヲ本任トスル建前ニテ可然
ク發表シ本件ニ關スル對内的關係ニ一應ノ結末ヲツケ
ルコトトス)

(5)尙岩井ノ問題ハ右(4)ノ實現ト共ニ別ニ考慮ス

(1)客年南京ニ於ケル日支交渉ニ於テ支那側ハ成都總領事館
ノ再開方原則上同意セルモ成都事件自体ノ解決ニ關スル
十二月三十日附公文ノ交換ト同時ニ開館ヲ實行スルコト
ハ對内上困難ナルノミナラス現地ノ都合ニ付劉湘ヨリ返
電ナシトテ切ニ猶豫方懇請セルヲ以テ支那側トモ打合ノ
上我方ノミ前記交換公文ノ内容發表ニ關スル十二月三十
日附外務當局談ノ末尾ニ於テ「在成都帝國總領事館ハ支
那側ニ於テ諸般ノ準備完了スルヲ待チ近ク再開ノ豫定」
ト發表セリ

(2)然ルニ其ノ後支那側ニ於テハ我方屢次ノ督促ニモ拘ラス
西安事件片付カサル限り安全ヲ保障シ得ストカ、三中空
會終了迄待タレ度シトカ言フ左右ニ托シ再開ニ應セス其
ノ間岩井總領事館事務代理個人ニ對スル難辭迄ヲモ持出
シ來ル始末ニテ、三月十九日董道寧ハ南京大使館々員ニ
對シ「最近四川ト中央トノ關係急激ニ惡化シ至急(例ヘ
バ五月一日ヨリ)再開ハ到底引受ケ難シ」ト語り又四月
七日王部長ハ川越大使ヨリノ督促ニ對シ「就任匆々ニテ
詳細ナル經過ヲ承知セサルニ付研究ノ上回答致度シ」ト
答ヘ居ル狀態ナリ

三今後ノ方針

右形勢ニモ鑑ミ我方ニ於テハ四月十日岩井書記生ニ對シ
「事務報告ノ爲一時歸朝スルノ建前ニテ」歸朝方訓電シ
全書記生ハ二十四日着京セル處本件ニ關シテハ今後大体
左記方針ニ依リ速ニ妥結ヲ計ルコトト致度シ

(1)先ツ外交部ニ對シ「帝國政府ニ於テハ今般新ニ在重慶
糟谷領事ヲ成都總領事ニ任命シ同總領事ハ近ク成都ニ
赴任ノコトトナレルニ就テハ從來ノ約束ニ基キ開館ニ
對シ便宜供與アリ度」旨申入レ支那側ノ意向ヲ「サウ
ンド」スルコト

(2)支那側ニ於テ右(1)正式開館ニ多大ノ難色ヲ示シタル場
合ニハ支那側ニ對スル關係ハ糟谷ヲ重慶領事ノ資格ニ
テ不取敢一時成都ニ出張セシムル形式トスルモ已ムナ
シ(支那側ノ所謂暫居省城ニ對應セシム)

(3)右(1)及(2)「ライン」ニ依リ一應支那側ノ意向ヲ打診シ
タル上糟谷領事ニ對シ成都在勤方發令ス(糟谷領事ハ
成都總領事カ本任、重慶領事カ兼任ノ建前トナル)

(4)前記外務當局談ノ經緯モアリ右(3)ノ措置ヲ執リタル上
ハ議會開會前成ルヘク速ナル機會ニ適當ナル發表ヲナ

本官八日王寵惠ト會見成都總領事館再開問題ニ付テハ支那
側ニ於テ累次承認ヲ與ヘ開館ニ關スル便宜供與ヲ約束シ居
ルニ拘ラス今猶之カ實現ヲ見ルニ至ラサルハ極メテ遺憾ニ
シテ斯テハ我國民一般ニ對シテモ國民政府ノ誠意ナキコト
ヲ暴露スルコトナリ日支國交ノ打開上ヨリスルモ面白カ
ラサルニ付此ノ際外交部ニ於テハ進ンテ速ニ本件ヲ解決シ
從來ノ約束ヲ實行セラレ度キ旨要求セル處王ハ本件總領事
館再開ハ外交部ニ於テモ既ニ明白ニ其ノ原則ヲ認メタル所
ニシテ決シテ之ヲ翻ス意思ナク其ノ再開ノ手配遅レ居ルハ
故意ニ引延シ居ル次第ニアラス全ク四川内部ノ事情ニ基ク
モノニシテ萬一總領事赴任ノ後再ヒ不祥事件ニテモ發生ス
ルカ如キコトアレハ却テ面白カラサルヲ以テ外交部トシテ
ハ總領事カ圓滿ニ職務ヲ執行シ得ル事態ヲ見極メタル上再
開ノ準備ヲ整ヘ度キ心算ナリト答ヘタリ依テ本官ヨリ目下
東京ニ於テハ糟谷領事ヲ成都總領事ニ任命方考慮中ノ模様
ナルカ同領事ハ支那ニ多年在勤シ支那地方官憲トハ從來極
メテ圓滿ナル接觸ヲ保チ居ル人物ナルヲ以テ現地ノ事情ニ
多少懸念スヘキ點アリトスルモ同人ナラハ漸次事態ヲ和ケ
職務ヲ執行シ得ルモノト期待セララル旨説明シタルニ王ハ

右我方ノ心遣ヒヲ諒トシタル後至急現地狀況ヲ調査シタル
上回答スヘシト述ヘタリ

尙本件ニ關シテハ七日高宗武ニ八日陳介ニ對シ王ニ對スル
ト同様申入ヲ爲シ置キタルカ何レモ中央對四川ノ關係ニテ
延々トナリ居ル旨説明シ陳辯ニ努メタルニ依リ至急勇氣ヲ
出シテ本件實現方處置スヘキ旨力説シ置キタリ

北平、上海へ轉電セリ

320 昭和12年6月10日 在中国日高臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開問題の措置振り訓令実行は
当面延期し再開實現方中国側へ督促を繼續す
べき旨請訓

南京 6月10日後発
本省 6月10日夜着

第四〇八號

五月二十二日附亞一機密第五九號貴信ニ關シ

(一)支那側ノ態度ハ往電第四〇四號ヲ以テ報告ノ通り其ノ眞
意ハ別トスルモ我方ニ對シテハ明確ニ正式開館ノ原則ヲ

問題ノアリタル地ナルニ鑑ミ我方ニ於テ糟谷ノ任命ヲ發
表シ且右附屬書ニノ四ノ發表ヲ爲ス場合ニハ支那側ヲ刺
戟スル點ハ成都總領事ノ資格ヲ以テスル正式赴任ノ強行
ト餘リ異ラサルヘシ)
冒頭貴信ヲ以テ御來示ノ通り不測ノ事態ヲ發生セシムル
カ如キコトナキヲ期スル爲ニハ先方ヲシテ正式開館ニ對
スル便宜供與方ヲ約諾セシムル必要アル處先方ハ今直ニ
右約諾ヲ爲スコトヲ溢リ居ル關係上糟谷ハ結局重慶ニ立
往生シ岩井ノ轍ヲ覆ムコトトナリ斯テハ事態ヲ何等改善
シ得ラレサルノミナラス岩井ノ場合ニ比シ我方ノ體面ヲ
一層損スルコトトモナリ甚タ面白カラサル結果ヲ招致ス
ル次第ナルニ付本省ニ於テ本件ニ一應ノ結末付クルコト
ヲ必要トセラルル我内政上ノ關係ハ充分推察シ居ルモ糟
谷ニ對スル發令ハ今暫ク時機ヲ待タルルコト然ルヘシト
存セラル

(三)本官ハ有ユル機會ヲ捉ヘ正式開館方ニ付支那側ヲ突付ク
所存ナルカ中央對四川ノ關係ハ新聞ニ報道セラレ居ル程
簡單ニハ片付カサル様觀察セラルルモ王外交部長、陳次
長、高司長等ノ談話ヲ綜合スルニ漸次改善セラレツツア

認メ居リ唯現地ノ事態改善ヲ見ル迄實行ヲ待タレ度シト
言ヒ居ル次第ナルニ付此ノ際我方ヨリ進ンテ冒頭貴信附
屬書ニノ(二)ノ如キ一種ノ讓歩案ヲ持出スコトハ不得策ナ
ルノミナラス糟谷ハ飽迄成都總領事專任トシテ赴任セシ
ムルコト諸般ノ關係上望マシキヲ以テ本官ハ今暫ク我方
最初ヨリノ建前ヲ堅持シ此ノ上トモ執拗ニ支那側ヲ突付
キ正式開館ニ漕着クル様努力致度キ所存ナリ

(二)前記附屬書ニノ(三)ニ依レハ此ノ際兎ニ角糟谷ニ對シ成都
在勤ヲ發令セラルル御意嚮ノ趣ノ處支那側ノ態度如何ニ
拘ラス糟谷ノ成都赴任ヲ強行セシメラルル御意嚮ナルニ
於テハ格別(先方ニ於テハ四川ノ狀況改善ヲ見ル迄總領
事館ノ再開ヲ待タレ度シト言ヒ居ル關係上我方ニ於テ之
ヲ無視シテ糟谷ノ赴任ヲ強行スル場合ニハ先方ヲ刺戟シ
テ糟谷ノ職務執行妨害ノ爲種々内面工作ヲ爲サシムルニ
至ル惧ナキニシモアラサルノミナラス不祥事件發生等ノ
場合ニモ先方ニ責任回避ノ口實ヲ與フル危險アリ前記附
屬書ニノ(二)ノ形式ハ支那側ニ對シテハ重慶領事カ一時成
都ニ出張スル建前ヲ執ルモノナルヲ以テ場合ニ依リテハ
支那側ノ意嚮如何ニ拘ラス赴任ヲ強行シ得ヘキモ成都カ

ルハ事實ナルモノノ如キヲ以テ此ノ際總領事館ノ再開問
題トハ別ニ糟谷カ時々成都ニ出張シ劉湘(上海發貴大臣
宛電報第二七五號參照)其ノ他トノ接觸ヲ密ニシ彼等カ
個人的關係上糟谷ノ成都赴任ヲ拒否シ得サル様仕向クル
コトハ本件促進上頗ル効果アルモノト思考セラル
北平、上海へ轉電セリ

321 昭和12年6月15日 広田外務大臣より
在中国日高臨時代理大使宛(電報)

成都總領事館再開問題の措置振り訓令実行延期
を承認し中国側へ正式開館實現を督促方回訓

本省 6月15日後7時30分発

第九八號

貴電第四〇八號ニ關シ

亞一機密第五九號當方意ノ存スル點ハ會禮書記官ヨリ十分
御聽取ノコトト存スル處冒頭貴見ノ次第ハ全然同感ナルニ
付(二)ニ依リ成ルヘク速ニ正式開館ヲ見ル様此ノ上共御盡力
相成度當方トシテハ今暫ク右話合ノ推移ヲ見ルコトト致ス
ヘシ尙(三)ノ點モ至極結構ト存セラルルニ就テハ外交部側ト

モ連絡ノ上適當ノ時機ヲ見計ラヒ糟谷領事ニ對シ成都出張方御指示アリ度シ
北平、上海ニ轉電セリ

322 昭和12年6月22日 広田外務大臣より
在重慶糟谷(廉)領事宛(電報)

成都総領事館再開問題に関する措置振り訓令
の修正について

本省 6月22日後3時30分発

第七號

支發本大臣宛電報第二五八號ニ關シ

本件ニ關スル我方方針及其ノ後ノ交渉經過左ノ通

ハ支那側ハ我方屢次ノ督促ニモ拘ラス依然言ヲ左右ニ託シ
テ再開ニ應セサル處從來ヨリノ建前モアリ本件ハ此ノ儘
無碍ニ放任シ難ク一應ノ結末ヲ着クル必要アリ依テ支那
側トノ關係ヲモ考慮ノ上四月一先ツ岩井ヲ一時歸朝ノ建
前ニテ歸國セシムルト共ニ貴官ヲ成都總領事(兼任重慶
領事)ニ任命シ同地ニ正式赴任セシムルノ方針ヲ決シ支
那側ニ對シ右貴官任命ノ點ニモ言及シ從來ノ約束ニ基キ

示スル様訓令濟ナルニ付右含ミニテ地方當局トノ接洽ニ

努メラレ度シ

支、北平、上海ニ轉電セリ

編注 本件交渉經過は本書第319文書参照。なお、別電第八号

は見当らない。

323 昭和12年7月13日 在中国川越大使より
広田外務大臣宛(電報)

重慶領事の成都総領事兼任案を同領事より吳
沢湘へ説明したところ吳が賛同表明について

南京 7月13日後発
本省 7月13日夜着

第五一〇號

重慶發本使宛電報

第一四號

大臣へ轉電アリタシ

開館ニ對シ便宜供與方申入ルヘキ旨在支大使宛訓令シ置
キタル處右ト前後シテ日高代理大使ヨリ本件ニ關スル八
日王外交部長トノ交渉經過別電第八號ノ通り電報越シタ
リ

ニ右別電ニ依ルモ支那側ハ明確ニ正式開館ノ原則ヲ認メ乍
ラ四川ノ事態改善ヲ見ル迄實行ヲ待タレ度シト逃ケ居ル
次第ナル處我方ニ於テ今直ニ貴官ヲ任命且其ノ次第ヲ發
表シテ正式赴任ヲ強行スルコトハ成都ノ土地柄ニモ鑑ミ
不必要ニ支那側ヲ刺戟シ貴官ヲシテ岩井ノ二ノ舞ヲ演セ
シムル懼多分ナルヲ以テ此ノ際ハ之ヲ避クルコトトシ我
方トシテハ支那側累次ノ言質モアリ專ラ當初ヨリノ建前
ヲ堅持シ在支大使ヲシテ南京政府ニ對シ成ルヘク速ニ正
式開館ニ對スル便宜供與約諾方ヲ迫ラシメ前記ハ方針ノ
實行ハ今暫ク右話合ノ推移ヲ見ルコトトセリ(從テ貴官
任命ノ時期モ差當リ右話合ノ推移如何ニ依ル次第ナリ)
ニ右中央ニ於ケル工作ト竝行シ此ノ際貴官力時々成都ニ出
張セラレ劉湘其ノ他トノ接觸ヲ密ニセラルルコトハ本件
促進上效果アルヘシト存セラレ在支大使ニモ外交部側ト
連絡ノ上適當ノ時機ヲ見計ラヒ貴官ニ對シ成都出張方指

第二二號

九日蘆溝橋事件ニ依リ排日運動豫防手配方申入レ旁吳澤湘
ヲ訪問シタル際成都總領事館再開問題ニ關シ日高代理大使
ヨリ外交部ニ交渉ノ次第ヲ語りタルニ依リ本官ニ於テ成都
重慶兼任ノ我方方針ヲ説明セルニ吳ハ私人トシテノ内話ナ
リト斷リ右ノ方針ハ最モ機宜ヲ得タルモノニシテ四川省當
局ハ總テ贊同スヘク自分ヨリ外交部ニ報告スヘシ唯成都ハ
未開港地ナレハ同總領事館警察官ヲ設置セサル様致度シト
述ヘ居タリ

當時當地ニ滯在中ナリシ劉湘ニモ面會ノ筈ナリシカ劉ハ急
遽歸任セルニ依リ本官ハ本月末頃吳澤湘ト共ニ成都ニ赴キ
劉以下成都官憲ト接洽ノ豫定ナリ

尙右本官ノ出張ハ館員一名ヲ帶同スル筈ニ付御含置キ相成
度シ又同地官憲トノ交驩其ノ他ニ要スル機密費銀三百弗御
支出ヲ請フ

上海へ轉電アリタシ